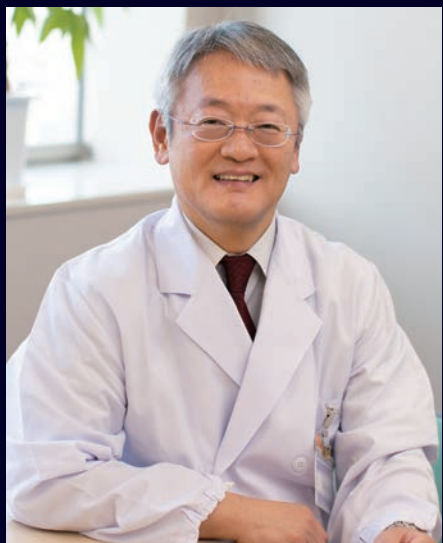


Home Care Support Center



「患者さんやご家族の想いを一番考え、よりよい支援ができるよう、スタッフ全員で取り組んでいます」と話す森さんと松岡さん。写真はスタッフ一同。



在宅療養支援センター長・外科部長

羽井佐実 特任教授  
Haisa Minoru

■ 専門医  
日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医

「ご要望の多い訪問リハビリテーションに関しては、『訪問看護ステーションかわさき』のなかですでに運用が始まっており(訪問看護同様、医師からの指示書に基づいて、所属している療法士が利用者宅へ向く流れ)、今後さらに充実させていくためにスタッフの増員等を、現在準備中です。『在宅療養支援センター』としても今後は訪問介護も視野に入れ、さらに体制を整備していきたいと考えています」。



たとえ病気や障がいを抱えても、住み慣れた街や場所で、その人らしい暮らしができるよう、看護の視点から手厚くサポート。かかりつけ医と連携しながら、岡山市街地を中心に在宅療養支援に取り組んでいる。



私たちが取り組んでいる在宅療養支援は、疾病を抱えた利用者に対し、定期的に医療の視点が入ることで、重症化を予防し、一日でも長く在宅療養生活が継続できる、その手助けになるものと考えている。

医療最前線

》》》vol.69

川崎医科大学総合医療センター  
在宅療養支援センター

- ・訪問看護ステーションかわさき
- ・居宅介護支援事業所かわさき



訪問看護ステーション  
かわさき・管理者  
森 亜紀 看護副師長  
Mori Aki



居宅介護支援事業所  
かわさき・管理者  
松岡 美保  
Matsuoka Miho  
主任介護支援専門員

Report!

あなたを支える  
川崎学園の在宅療養支援

「在宅療養支援センター」の機能をさらに強化。

地域包括ケアシステムの一環として、患者さんの退院支援や在宅療養支援を行なっているのが「在宅療養支援センター」。当センターには、「訪問看護ステーションかわさき」と、「居宅介護支援事業所かわさき」があり、その役割について羽井佐センター長はこう説明する。「大切なのは、地域の方々が住み慣れた場所で安心して暮らせること。『訪問看護ステーションかわさき』では、医師の指示により看護師が利用者宅に訪問し、病気や障がいに応じた看護や、必要な医療的ケア等を行ないます。『居宅介護支援事業所かわさき』では、利用者の方が安心して生活ができるよう、ご本人やご家族の意向を尊重しながら関係機関と連携し、ケアプランを作成します」。

訪問看護を担当する「訪問看護ステーションかわさき」の管理者・森亜紀さん(看護副師長)が当ステーションの特徴を話してくれた。「所属するスタッフは、看護師として急性期病院での経験を持ち、当ステーション自体も急性期病院のひとつである総合医療センター内にあるため、専門的な研修や情報入手が可能。そのため医療ケアの必要性が高い場合でも、確かな専門性で対応できるのが強みです。さらには、皮膚・排泄ケア認定看護師や特定行為研修修了者による、床ずれや創傷の手当てといった、より専門性の高い医療も提供できるようになりました」。

次に「居宅介護支援事業所かわさき」の特徴について、管理者の松岡美保さん(主任介護支援専門員)はこう話す。「高齢化が進むなか、当所では、医療や介護のニーズが高い方がスムーズにご自宅に復帰し、安心かつ快適な生活が送れるよう支援しています。現在在籍しているケアマネジャー(介護支援専門員)は看護師、管理栄養士、介護福祉士といった基礎資格を持つっており、それぞれの専門知識を生かした幅広い支援ができるのも当所の強みだと考えています」。さらに次世代を担う社会福祉士や介護福祉士の教育・実習の場としても重要な役割を担っているという。「当所での実習で、医療を提供する場としての病院だけでなく、患者さんの生活と医療機関とのかわりを知ることで医療福祉と地域の暮らしを支えることができる人材を育成できます」と。とその意義を強調する。

最後に羽井佐センター長は、「学生だけでなく、スタッフ全体の教育の場ともなりうる当センターの役割は重要です。これからも地域医療と連携を図りながら、患者さんによりよい在宅療養支援を行なっていきます」。当センターの在宅医療・ケアの質の向上と、それを担う人材育成への今後の取り組みがさらに期待されている。

お問合せ

川崎医科大学総合医療センター

岡山市北区中山下2-6-1

086-225-2111

http://g.kawasaki-m.ac.jp